



編集部では表紙を飾る写真を募集しています!投稿方法は [nuischannel@nu.ac.jp](mailto:nuischannel@nu.ac.jp)までお問い合わせください。

PHOTO:山下 功(情報文化学部准教授)

## CONTENTS

(2・3面)

平山学長に叙勲・旭日重光章  
ネットで手軽に栄養計算のDB  
遠隔地のペットロボと会話交信  
湧源・編集後記に代えて

(4・5面)

韓国・慶熙大でインターンシップ  
研究テーマ多彩・卒論中間発表会  
紅翔祭・模擬店、イベント過去最多  
企業懇談会で291社と情報交換  
平成27年度一般入試概要とポイント

(6・7面)

教員海外研修便り  
ズームアップ研究室  
社会インフラと  
情報システム再考  
教員の活動

(8面)

卒業生の便り  
藤沢周さんを招き特別授業  
よしもとばななさん記念トーク  
(エクステンションセンター10周年)



NUIS公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/nuis.face>

NUISスクールアプリ

iPhone・iPad・Androidスマートフォン・タブレット向け  
App StoreまたはGoogle Playストアから新潟国際情報大学で検索  
アプリをダウンロードしてご利用ください。

LINE@  
@nuis-line3111

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

# 勇気を持ちさらなる発展のスタートに

でしょう。そして20周年の最後の記念事業として、学生会館と食堂の拡張・リニューアルが完成し、後期から利用開始され、キャンパスライフが一段と充実するなど有意義な年となりました。O.B.のみずき会から学生会館の前にお祝いとして記念に時計塔の寄贈を頂きました。この

学長 平山 征夫



**2学部の「知」を集積 地域の中核になろう**

紙面を借りて御礼申し上げたたいと思います。学生会館が部活の活性化はじめ学生生活の充実に大いに貢献することを期待しております。とくに学長としましては学生諸君による自主管理・運営をお願いしたこともあり、皆さんの自主運営により有意義な活用がなされることを強く願っています。

本年は2学部制になつて2年目となります。新体制の定着・効果発揮が望まる年になります。国際化と情報化という時代要請に的確に対応できる人材育成という建学の目的をより達成できますよう、各学部の専門性をいつそう高めるとともに、より人間性に富んだ人格形成を目指した教育内容の充実を図つていきたいと思います。そのため教職員一体となつてこの目的に向かつて力を合わせていきたいと思いますので、どうぞご協力のほどよろしくお願ひします。

しかし、大学を取り巻く環境には一段と厳しいものがあります。少子化や地方経済の低迷が進むなど客觀情勢の悪化に加えて、国の教育予算の配分が実績主義になつてますうえ、大学運営面でのさらなる改革要請が強まっています。大学が自らの理

## 学生会館の活用 学生の自主管理に期待

念により魅力と特徴のある大学づくりを真剣にすることが求められています。本学が21年の歴史を踏まえて、この地で「知」の中核的存在としてその集積をどう発揮できるかもう一度考えてみる一年にしようと思つてます。皆さんからも大いに知恵を出してください。あらためて大学が持つてゐる「知」の資産を生かして、さらに地域になくてはならない大学を目指したいと思います。

## 平山学長に叙勲・旭日重光章

## 県政と人材育成に功績

「主体的に学べ」と  
学生たちを激励

に情熱を注ぎ、長岡技科大や事業創造大学院大学で「地域経営概論」「東アジア経済論」などを授業、平成20年4月に本学学長に迎えられました。

本学でも「地域経営」の講義を持つなどして、学生とは自然体で親しく接し、校歌を一緒に歌い、卒業生全員一人ひとりに握手して勇気と希望を持ち続けようと門出を祝福しています。学生たちには、主体的に学べ、考える力をつけようと常に語りかけ、人間性豊かな人格を形成し国際化・情報化社会で地域の中核の人材になれと激励

年務めました。政治不信を回復し、相次ぐ災害、柏崎刈羽原発のトラブル隠しなど県政の難題に全力で対処、また本学開学にも尽力されました。

平成26年度の秋の叙勲で平山征夫学長が旭日重光章を受章されました。県政の運営に奔走し、地域貢献と若者の人材育成に情熱を傾けるなど顕著な功績が評価されています。

平山学長は柏崎市出身で、横浜国立大から日本銀行に。新潟、仙台支社長を経て、佐川急便事件で知事が辞任し、混乱に陥っていた県政の信頼回復を託され、平成4年に県知事に就き3期12年務めました。政治不信を回復し、相次ぐ災害、柏崎刈羽原発のトラブル、しなど県政の難題に全力で対処、また本学開学にも尽力されました。

知事を勇退後は県土を担う人材育成



見るもの全てが輝いてきた



前列左が保志野さん

韓国・ソウルにある慶熙大学に、9月1日から約3週間の日程で行つてきました。この上達させることでした。が、親元を離れての生活も海外に行くのも初めてだつた私にとって、異国之地で一人生活していくのかどうか不安でした。

しかし、韓国に着くとこの不安はなくなりました。ルームメイトなど、私以外にもたくさん留学生がいたからです。寂しさと言葉が通じない悔しさで泣

情報文化学科恒例の卒業論文中間発表会が11月1日、みずき野本校で開催されました。この発表会は、4年生が学生生活の集大成として、それぞれが関心のある研究テーマを見つけ、取り組んだ成果を発表し、所属するゼミ以外の学生、教員、地域の皆さんから意見、質問、アドバイスを受けたことで、よりレベルの高い論文作成につなげることが目的です。また自分の研究テーマとまったく異なる研究を聞き、啓発を受けたり与えたりして、お互いに刺激し合う

# 卒論中間発表会 多彩な研究テーマを披露

発表会を行うに当たつて事前準備、広告、運営と3年生の実行委員が中心となつて準備してきました。私は実行委員長として対応させていただきました。当日は、目立つた問題も発生せず、順調に進行しました。実行委員も日頃のゼミでの司会の成果が發揮されているようです。中盤に差し掛かるにつれ発表会の雰囲気も全体に盛り上がり、私もいくつかの発表を聞かせていただきました。

学生の関心が高い恋愛

ます。

実行委員長 中山大輔（情報文化学科3年）

関連、戦争と平和、錦鯉から見る世界、ディズニープリンセスから見る女性像など、その他にも多種多様な研究テーマがあり、できることなら全ての発表会場を回りたいと思いました。私も早く研究テーマを決めて活動を始めたいと思いました。またある実行委員は、来年の自分の姿を思い巡らせて、質疑応答の討論の記録を取り熱心に運営を行つっていました。1年生の参加も見られました。

来年はさらに多くの参加者が来てくれるのを祈っています。

10月上旬に体調を崩され新潟大学病院に入院、加療されていた国際文化学科教授の小澤治子先生が、12月1日午前10時30分ご逝去されました（享年58歳）。



## 小澤治子先生が急逝 学生会館で「お別れ会」開

## 小澤治子先生が急逝

学生会館で「お別れ会」開く(12月10日)

外國語学部ロシア語学科を卒業され、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学の後、日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員に、本学には設立の翌年（平成7年）に着任（助教授）。平成12年に博士号（法学）を取得されました。主な研究分野は20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察すること。特に1917

年のロシア革命、また、第二次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に关心を持つて研究され、本学での担当科目は国際政治学、国際政治史、日ロ関係論などでした。

ご親族のご意向、また故人のご遺志もあり、新潟でのお通夜、告別式は執り行わないこととなりました。本学では先生の長年のご活躍と明るく温和な人柄を偲び「お別れ会」を12月10日に学生会館で行いました。ご冥福をお祈りいたします。

## 紅翔祭を終えて

実行委員長 新村 蓮  
(情報システム学科2年)

## 模擬店。イベントが過去最高に

後援により開催した文化講演会では、某TV番組で一躍有名となつた弁護士の住田裕子氏をお招きし、出会つたさまざまな人の体験談を交えながら、これからどのようにして生きていいくべきなのかを講演していただきました。

お笑いライブでは今年はバツファーロー吾郎さん、ゆつたり感、バックスクリーンの3組。他にもクラッチさんとポテさん的大道芸や、学内のアカペラサークルと社会人団体とのコラボ、本学卒業生ぽこぴーさんの音楽ライブなど、多くのイベントが多くの方々に楽しんでいただけたと思います。

失敗したり挫折しかけたりしながらも、団体代表者や実行委員の協力で祭を成功させることができました。協力してくれた方々に囲まれていたからこそ、私は諦めずに頑張れたのだと思います。ありがとうございまし

# 企 業 懇 談 會

就活

企業、団体の方々と本学教職員が情報交換する企業懇談会が11月19日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。本年度は291社、395人の多くの関係者に参加いただきました。恒例の講演会には元ラグビー日本代表で現在、芦屋学園理事長の大八木淳史氏をお迎えしました。

## 291社が参加し情報交換



## 就職状況を紹介し協力に感謝

条件とは「ラグビー校長の理論と実践」で大八木氏は、ラグビーとの出会いをユーモアを交えて話しながら、道筋を通せる人間、いわゆるリーダーシップを取つた人間が、あらゆる組織体から期待されていると話されました。また、人生は邂逅<sup>うぶ</sup>です。出会いを繰り返している。人生とは99%が邂逅<sup>うぶ</sup>であり、1%はミラクルや成功。生きていることは人との出会いがあり、良いこと悪いこと、辛いことなども自分で表現し答えを出さなければならないし、周囲のサポートも重要だ。結びに、スポーツを実践した人間は職

場で活躍できる人材になる  
と話されました。

懇親会では星野元理事長  
が日ごろの就職活動における  
協力に対し感謝を述べ、小林満男就職指導委員長(情報システム学科教授)  
が現在の就職状況を説明し、企業との良好な関係にあらためて感謝し、さらなる採用についてお願ひしました。来賓代表として、新潟市副市長で本学理事・評議員の若林孝様からご発声をいただき開宴。大八木氏も同席され、本学卒業生の近況や本年度内定者について情報交換をしつつ懇親を深めました。

## ◎平成27年度 一般入試概要とポイント

※出願期間内消印有効。

※詳細は「平成27年度学生募集要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nu.ac.jp/>)でご確認ください。

募集学部 2学部2学科 情報文化学部 情報システム学科／国際学部 国際文化学科

## 入試のポイント

入試区分	募集人員	出願期間	試験日／試験場		試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間	
前期	情報文化学部 情報システム学科 国際学部 国際文化学科	65 35	1月 5日(月) ~ 1月23日(金)	2月 2日(月)	新潟 上長岡 新発田	【国語】 国語総合(現代文)・現代文 【数学】 数学I・数学A 【外国語】 英語I・英語II	2月 6日(金)	2月 6日(金) ~ 2月18日(水)
	情報文化学部 情報システム学科 国際学部 国際文化学科	10 10	2月25日(水) ~ 3月10日(火)	3月16日(月)	新潟	上記3教科の中から 2教科以上を選択、3教科 受験した場合は高得点の 2教科を合否判定に使用	3月19日(木)	3月19日(木) ~ 3月26日(木)
大学入試 センター試験 利用	情報文化学部 情報システム学科 国際学部 国際文化学科	10 10	1月26日(月) ~ 2月12日(木)	平成27年1月 17日(土)、18日(日)の 大学入試 センター試験を 受験していること	各学部の利用教科・科目の 中から2科目選択 3科目以上受験した場合は 高得点の2科目を 合否判定に使用	2月23日(月)	2月23日(月) ~ 3月 5日(木)	

2016年3月卒業生（現在大学3年生）から大きく変わります。政府から経済3団体（経団連、経済同友会、日本商工会議所）に要請し、広報活動の開始時期を3年生3月（4年生になる直前の春休み）に、また、採

現状は決して楽ではありません。就活に対する意識を変えて臨みましょう。

対処!!

育館で開催いたします。

来年度に関しては広報活動、いわゆる採用に関する個人情報の交換および求人情報は、倫理憲章により実施できない状況です。そこで事前に企業にアンケートを実施したところ、対応策

時30分から17時まで、いずれも、みずき野本校体

と、その後の運動性を重視しました。この会はブース形式で時間を区切り、一斉に学生が移動いたします。そこでは学生の自己紹介タイムを含み、企業との交流を図り、業界理解を深めることにしています。3月に就職サイト企業の合同企業説明会が一斉に開催されます。多くの学生が参加するわけですが、本学学生はその1ヶ月前に多くの企業から業界についての説明を聞きます。そして3月の就職活動解禁月には、事前に業界研究ができる状態で、自分が興味のある企業へのアプローチを開始できます。

引き続いて4月には、本学で合同企業説明会を開催いたします。そこでは、自己を最大限にアピールできるように日程を企画しました。

## 一般入試(前期・後期)で第2志願制を導入!!

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、年間授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。



# ソウル大で客員研究員の1年

— 国際学部 国際文化学科・教授 申銀珠

韓国のソウル大学の奎章閣  
韓国学研究院・国際韓国学セ  
ンターの客員研究員として一  
年間勉強させていただきまし  
た。

10、11月は、透き通った青  
空が広がるソウルの秋晴れに  
心が躍り、自分の国に惚れな  
おす不思議な感覚を覚えまし  
た。紅葉の鮮やか  
な色も感動的でし  
た。キャンパス内  
でも面白いイベン  
トが絶えませんで  
したが、ちょっと外  
に目を向けると、

街のいたるところで文学祭や  
音楽祭などが行われていて、  
街を歩きながら楽しみまし  
た。2002年ワールドカッ  
プのときから始まつた街頭応  
援の文化が今やさまざまなジ  
ャンルにまで広がり、街角で  
と共に楽しむ  
独特な文化  
空間をつく  
り上げてい  
るのです。

韓国社会  
はサラダボ  
ール。今す  
でに日本よ  
り外国人の  
割合が高い  
ですから、今後その成果は着



## 「サラダボール」の母国を冷静に見て 「日本問題」とも真剣に向き合う

のですが、より開かれた多民族社会、多文化社会の実現に  
真剣に取り組んでいる様子  
を、ソウル市内や近郊に新しくできた外国人街、松島（ソ  
ンド）国際都市の発展ぶりを  
見て確認することができます  
ました。もちろんそこにはさまざ  
まな困難や課題が山積してい

実に上がっていくだろうと思  
います。そういうえば、ソウル  
大の演劇部の定期公演の舞台  
も『洗濯』というタイトルの、  
ソウルで生活する恵まれない  
境遇のモンゴル人の青年と韓  
国女性の友愛の物語でした。  
奎章閣では学期中はほぼ毎  
週、研究会や講演会が開かれ

にはあの事故。40代50代のほ  
とんどの韓国女性が鬱状態と  
いわれた国民的トラウマ。そ  
して8月のフラン  
シスコ教皇の韓国  
訪問のときに感じ  
た満ち溢れる敬虔な熱気。個人と社会、個人と国家。  
大学の人間として  
研究と教育に携わっている以上、避けて通れない切実なテ  
ーマだということを、日本と  
韓国を照らし合わせながらあ  
らためて実感しました。

成均館大学国際シンポジウムでの研究発表、韓国外国語

大学での特別講義、奎章閣での研究発表などで、自分の研

究内容や考えをまとめることができました。これらの成果

をこれから授業や研究に積極的に生かしていくたいと思

います。そして韓国社会を冷静に見つめる姿勢を失わず自

分の中の「日本問題」とも真剣に向き合っていきたいと思

います。

近山 英輔(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

・(2014年) "Decomposition of multivariate function using the Heaviside step function", SpringerPlus 3, 704

プラーソル アレクサンドル(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年) Istorya yaponskogo obrazovaniya, Palmarium Academic Publishing  
・(2014年) Expert. Yaponsky yazyk v modelyakh, Vostochnaya Kniga.

### 2)学会・研究会・講演等

石井 忠夫(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

・(2014年7月2日~7月5日) "SCI for Pair-Sentence", Trends in Logic XIII (Studia Logica) (University of Lodz, Poland)

區 建英(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年11月7日~11月8日) 「福沢諭吉の自由における独立自尊と他者感覚」国際学術シンポジウム「東亜思想交流史」(台湾大学)

神長 英輔(国際学部 国際文化学科・准教授)

・(2014年10月15日~) "Рыбопромышленность в низовьях Амура и на северном Сахалине, оккупированных Японией в начале 1920-х годов", Международной научной конференции «Мировые конфликты: глобальное и региональное измерение» (к 100-летию начала I Мировой войны) (Южно-Сахалинск, Россия)

上西園 武良(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年11月1日~11月1日) 小柳孝裕 他「缶入りコーンポタージュの粒コーン飲み干しに関する研究」日本人間工学会東海支部研究大会(愛知工業大学)

小林 満男(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年11月25日~11月26日) 「情報感度の学習成果に及ぼす影響」経営情報学会(新潟国際情報大学)

小林 元裕(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年10月22日~11月5日) 小林元裕 他「東アジアと日本」かしわざき市民大学(市民プラザ)

小宮山 智志(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

・(2014年11月25日~11月26日) 「情報感度の学習成果に及ぼす影響」経営情報学会(新潟国際情報大学)

佐々木 桐子(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

・(2014年9月2日~9月4日) "Recovery of Japan's Automobile Industry after Natural Disasters", International Conference on Business & Information 2014 (Hawaii, USA)

近山 英輔(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

・(2014年9月9日~9月11日) 中山超 他「代謝混合物のシグナル分離に有用な2D-J NMRデータの解析支援webツールの開発」第66回日本生物工学会大会(札幌)

### 3)委員・社会的活動・記事・その他

神長 英輔(国際学部 国際文化学科・准教授)

・(2014年11月3日) 第4回地域研究コンソーシアム賞・研究企画賞の受賞(谷垣真理子を代表とする「国際研究プロジェクト『華南研究の創出』」と書籍『容する華南と華人ネットワークの現在』が受賞。神長は同プロジェクトの一部である科研費・基盤研究Bに2009年度から2011年度まで研究協力者・研究分担者として参加、上記著書にも共著者として参加)

小林 満男(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年10月25日~26日) 経営情報学会2014年秋季全国研究発表大会 大会委員長

・(2014年11月4日) 新潟市水道事業経営審議会出席(新潟市)

国際化が今後ますます進み、情報技術が進歩しても、人間が心の本質を理解したいという気持ちは変わらないでしょう。伊村研究室では、ヒトの心を心理学の視点から科学的に理解することを目指しています。ヒトがどのように世界を知覚、認識しているのか。言葉を話す以前の赤ちゃんは、どのように自身これらを実証的に調べることで、人間同士が年齢や性別、言語、文化を超えて情報を共有する仕組みについて考えました。

心理学は、脳科学、情報科学、経営学、会学など、さまざまな学問分野の影響のもと、これまでのテーマも多岐にわたっています。これまでのテーマには、私たちがどんな時に情報を見落としやすいのか、記憶したものを想起しやすくする



## ヒトの心を心理学の視点から科学的に理解

4年・石附誠士郎  
視覚情報と記憶容量の関係を実験で確かめる  
ゼミ生の卒業研究テーマ

本学学生を対象に、モニター画面上に色のついた記号を1つずつ見せた後、それらの「色」または「形」を順番に答えてもらう記憶課題を行いました。記号の数を2個から5個まで変化させることで記憶でくる記号の数、つまり記憶容量が色または形を答える場合で違うのかどうかを比較しました。その結果、色よりも形を答える場合の方が、記号の個数が増加しても正確に答えられることが分かりました。

私たちは身の周りの情報を五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）で得ています。その中で視覚の占める割合は最も高く、たとえば日常生活で出来事を記憶する際には色・形・動きなどのさまざまな視覚情報が活用されています。このような視覚情報の種類の違いによって記憶容量に違いがあるのではなかと考えました。

本学学生を対象に、モニター画面上に色のついた記号を1つずつ見せた後、それらの「色」または「形」を順番に答えてもらう記憶課題を行いました。記号の数を2個から5個まで変化させることで記憶でくる記号の数、つまり記憶容量が色または形を答える場合で違うのかどうかを比較しました。その結果、色よりも形を答える場合の方が、記号の個数が増加しても正確に答えられることが分かりました。

## 社会インフラとしての情報システムを再考



大会スタッフ一同

### 全国から研究者・実務家 77件の発表・報告

（情報システム学科 教授 小林満男）

#### 教員の活動（本人申告による）

##### 1) 研究論文・図書

安藤潤（国際学部 国際文化学科・准教授）

・（2014年）安藤潤 他『少子・高齢化と日本経済』文眞堂（54-72頁）

神長英輔（国際学部 国際文化学科・准教授）

・（2014年）「コンフから見るサハリン島の歴史」『Arctic Circle』北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌91号（4-9頁）

小林 満男（情報文化学部 情報システム学科・教授）

・（2014年）M.Tanaka,H.Sakamoto,M.Kobayashi & Y.Kitayama, "Estimation of Unwanted Spurious Domain Emissions From a Multicarrier Transmitter", IEEE Transaction on AEROSPACE AND ELECTRONIC SYSTEMS, Vol.50.No.3, 2293-2303

小林 元裕（国際学部 国際文化学科・教授）

・（2014年）“中日战争爆发与天津的日本居留民”，抗日战争研究 92(41791), 91-101

経営情報学会【全国研究発表大会】  
新潟中央キャンパスで開催  
10/25・26

4年・石附誠士郎  
視覚情報と記憶容量の関係を実験で確かめる

なっています。そこで本大会では「再考－社会インフラとしての情報システム@柳都、新潟」をテーマとしました。

大会では、一般セッション、研究部会セッションおよびポスターセッションなど全部で77件の発表・報告があり、社会インフラにおける情報と情報システムの利用などを中心に活発な議論が交わされました。



### 独自の洞察力と高い感受性

本学の近く西区内野ご出身の作家、藤沢周さんを招き11月6日、情報文化学部1年生を対象に特別授業を開きました。1998年「ブエノスアイレス午前零時」で芥川賞を受賞され、現在は法政大学経済学部教授としてもご活躍されています。作家への道を選んだ経緯を通して、藤沢さんの独自の洞察力というか感受性の高さを認識したひと時でした。

まず、「とすか(TOCKA)」についてのお話がありました。

「とすか」とは言語以前の位相、言い換えれば「動かされるもの」といったことだそうです。内野の雪景色を見て「なんて美しい世界なんだろう」と思うなかで、突然、落ち込んだ気持ちになる。これは一体どういうことなんだろう?と思つたことがきつかけで、人間の心の中に内在する「とすか」にたどり着いたそうです。「とすか」は魂の「とすか」、恋愛の「とすか」など、心の中には「とすか」と深い関係があるとも言及されました。

## 芥川賞作家・藤沢周さんを招き特別授業

情報文化学科 2013年度卒業 北 愛子

私は今、アフリカ南部にある小さな国、そして最貧国の一つであるといわれているマラウイで、青年海外協力隊として活動しています。

私の活動は初等学校における表現芸術（音楽、ダンスなど）分野の授業の質の向上に向け、担当地域の11の小学校を巡回し、マラウイ人教師の授業に協力したり、先生を対象にしたワークショップを開いたり、実際に教師として子供たちに授業をしたりします。

ここでの生活は、みんなが一緒に生きている感じ。大人も子供も、男性も女性も、障害のある子もない子も、外国人もマラウイ人も、人間も動物も虫も。と

## 最貧国マラウイで2年間活動

しかし、たびたび話に出てくるのは、やはり貧困のこと。「私たちの国は貧しいから」「お金がないから」という言葉を良く聞きます。貧困を理由に学ぶことを諦めなくてはならない子どももたくさんいます。

私はどんな貢献ができるのだろう。まだ答えは見つかっていませんが、表現藝術を通して表現することや、思考・創作

域の11の小学校を巡回し、マラウイ人教師の授業に協力したり、先生を対象にしたワークショップを開いたり、実際に教師として子供たちに授業をしたりします。

ここで生活は、みんなが一緒に生きていく感じ。大人も子供も、男性も女性も、障害のある子もない子も、外国人もマラウイ人も、人間も動物も虫も。と

しかし、たびたび話に出てくるのは、やはり貧困のこと。「私たちの国は貧しいから」「お金がないから」という言葉を良く聞きます。貧困を理由に学ぶことを諦めなくてはならない子どももたくさんいます。

私はどんな貢献ができるのだろう。まだ答えは見つかっていませんが、表現藝術を通して表現することや、思考・創作

にかくみんなの距離が近い。大きな家族という感じ。

家の周りを歩いていると「アイコ！アイコ！B.O！」（現地語のカジュアルなあいさつ）と子どもたちが駆け寄つて来たり、隣人がほぼ毎日家にやってきて話したり、歌を歌つたり…。みんな親切ですっかりこの地域を好きになりました。

する楽しさを伝えることはできると思いま  
す。彼らの生活がより楽しく豊かなも  
のになるよう、少しずつ自分のできることを見つけ2年間頑張って活動してい  
きたいです。（JICA在籍）



よしもとばななさんを迎えたトークライブ

エクステンションセンター  
開設10周年記念事業



小説「キツチン」でデビュー、世界的な人気作家よしもとばななさんを迎えてトークライブ「真心のありか」が11月3日、本学エクステンションセンター開設10周年記念事業として新潟中央キッチンバスで開かれました。よしもとさんら人気作家の編集者で西区内野出身の幻冬舎専務・石原正康さんと対談、人生、家族、旅、仕事など多様なテーマで本音を語る「ばななワールド」に市民ら約200人が聞き入りました。よしもとさんは、デビュー作について「バブルで日本中が浮足立つていた時代。こんな時代早く終わつてほしいと思っていた私と同じように、どこか取り残された気持ちを抱えた人たちの心に響いたのだと思う」と、当時の心境を語りました。子供のころから文章を書くのが得意で友達からお金をもらつて読書感想文を書いたこと、また、本家の逸話を披露して会場は笑いの渦に包まれました。

最後に、若い人たちに「じっくり自分と向き合い、他人のことや周囲にと

若い人にメッセージ

## 「じつじり自分と向き合って」